

平成31年3月期 (2018年度:第22期) 第3四半期決算説明会

平成31年2月1日

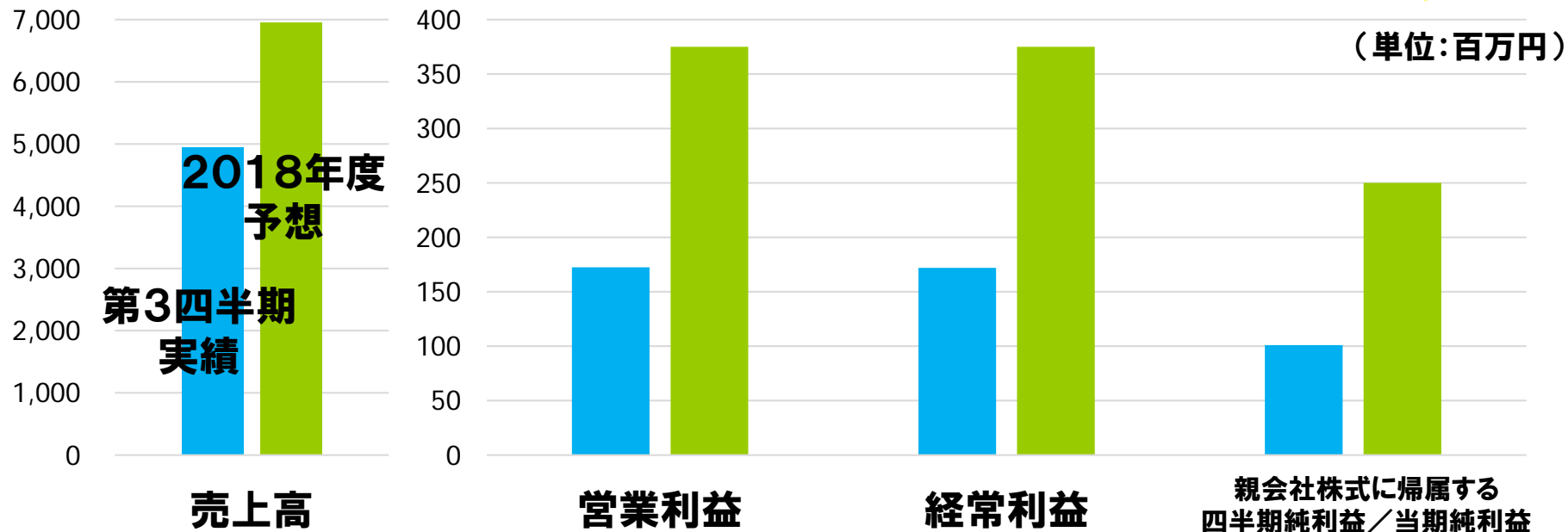
株式会社Jストリーム

※当資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資などの判断を行うことは差し控えて下さい。

もっと素敵な伝え方を。



2018年度 第3四半期実績ハイライト



	2018年度				
	3Q実績	通期予想	進捗率	前期実績	対前期増減
売上高	4,953	6,950	71.3%	4,254	+16.4%
営業利益	172	375	46.0%	198	△13.2%
経常利益	172	375	45.9%	206	△16.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/当期純利益	101	250	40.4%	210	△52.1%

四半期決算 連結損益計算書

	2017年度3Q(構成比)		増減率	2018年度3Q(構成比)	
売上高	4,254,554	100%	16.4%	4,953,338	100.0%
売上原価	2,532,658	59.5%	26.8%	3,210,393	64.8%
売上総利益	1,721,896	40.5%	1.2%	1,742,944	35.2%
販売費及び一般管理費	1,523,083	35.8%	3.1%	1,570,427	31.7%
営業利益	198,812	4.7%	△13.2%	172,517	3.5%
経常利益	206,334	4.8%	△16.6%	172,023	3.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	210,891	5.0%	△52.1%	101,037	2.0%

受注動向

- ◆ 医薬業界を顧客とするWEB講演会は計画には届いていないが第3四半期は復調
- ◆ 大型の運用、開発受注等メディア系が好調
- ◆ 情報提供用アプリ等の大口開発あり
- ◆ 前年度子会社化したイノコス社が売上貢献

損益分析

- ◆ イノコス社の仕入原価増／運用・開発案件で外注・業務委託費増加
- ◆ 販管費の増加は抑制
- ◆ 単体利益率も上期に比べ第3四半期は改善傾向

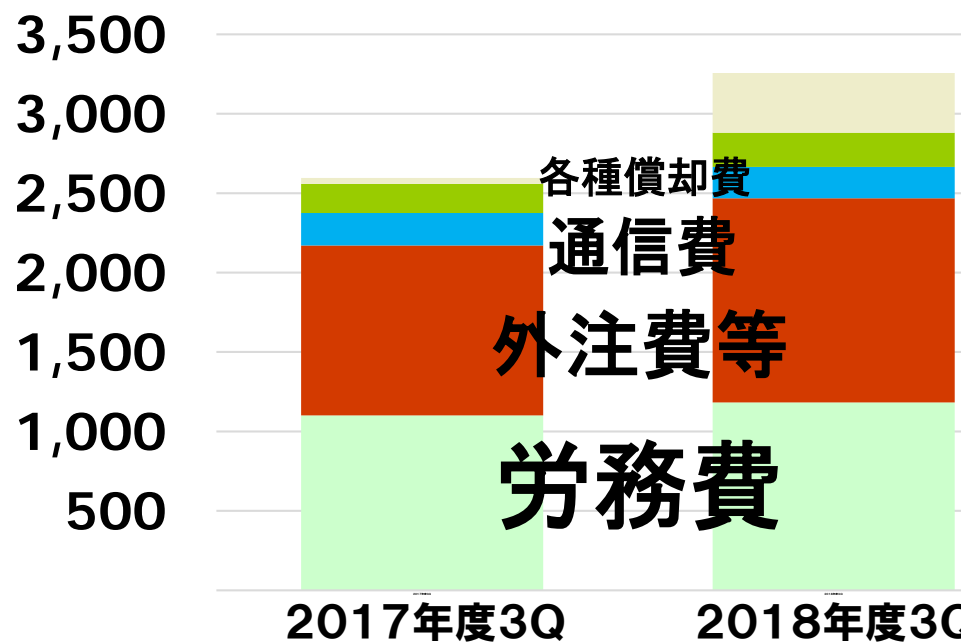
連結バランスシート

(単位:千円)

		2017年度末	主な変動要因	2018/12月末
資産の部	流動資産	3,463,644	現預金 Δ207M 売掛金 Δ227M	3,137,895
	固定資産	1,309,926		1,652,998
	有形固定資産	385,471		398,999
	無形固定資産	708,829	ソフトウェア開発 着手等によりソフト ウェア/同仮勘定 増加 +134M	823,529
	投資その他の資産	215,625		430,469
資産合計		4,773,571		4,790,893
負債の部	流動負債	768,846	投資有価証券 +232 M ビッグエムズワイ株式	712,613
	固定負債	102,935		154,912
純資産の部	資本金	2,182,379		2,182,379
	資本剰余金	626,241		626,241
	利益剰余金	1,318,233		1,332,021
	自己株式	△459,221		△459,221
	評価・換算差額等	225		132
	非支配株主持分	233,930		241,815
	純資産合計	3,901,788		3,923,368
負債・純資産合計		4,773,571		4,790,893

◆8月のビッグエムズワイ社への出資に伴い投資有価証券が増加

売上原価(連結)主要項目

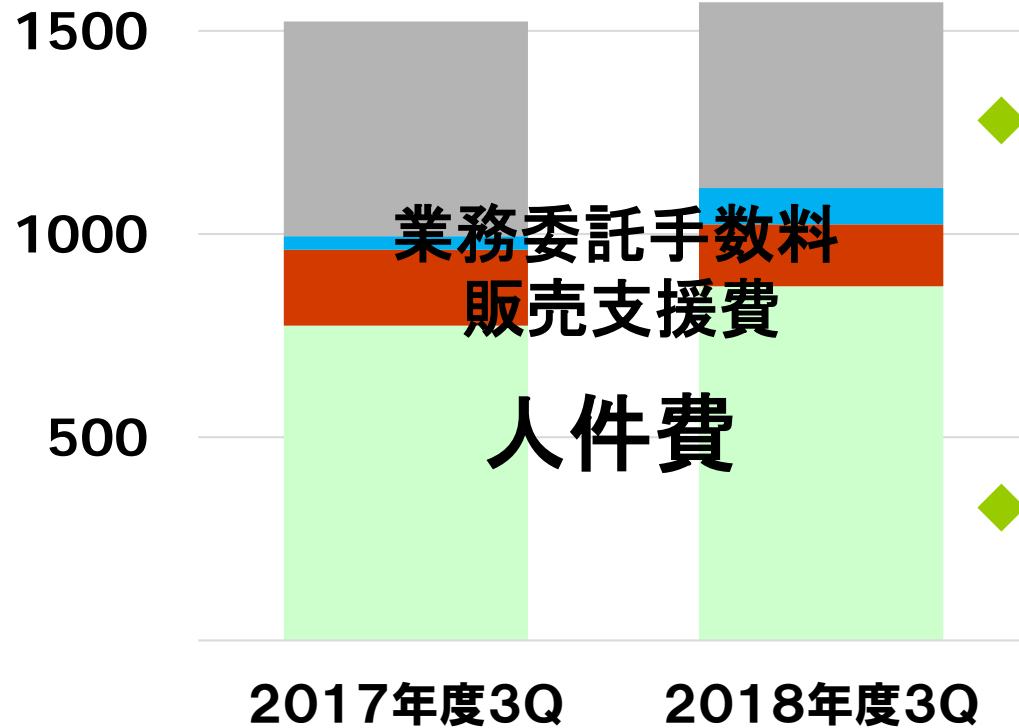


- ◆ イノコスの事業が原価増に影響 (仕入れ、労務費)
- ◆ 制作系子会社での採用強化 (内製化推進)に伴い労務費増
- ◆ 外注費増加要因
配信:メディア系大口の運用業務やライブ配信

制作:システム
開発、サイト運用
支援等の受注増

	2017年度3Q	構成比	増減率	2018年度3Q	構成比
労務費	1,101	43.5%	7.4%	1,182	36.8%
外注費等	1,069	42.2%	20.2%	1,285	40.0%
通信費	203	8.0%	△3.2%	197	6.1%
各種償却費	183	7.2%	17.2%	215	6.7%
その他振替等	△62	—	—	△45	—
仕入高	36	1.4%	920.9%	375	11.7%
売上原価合計	2,532		26.8%	3,210	

販売費及び一般管理費(連結)主要項目

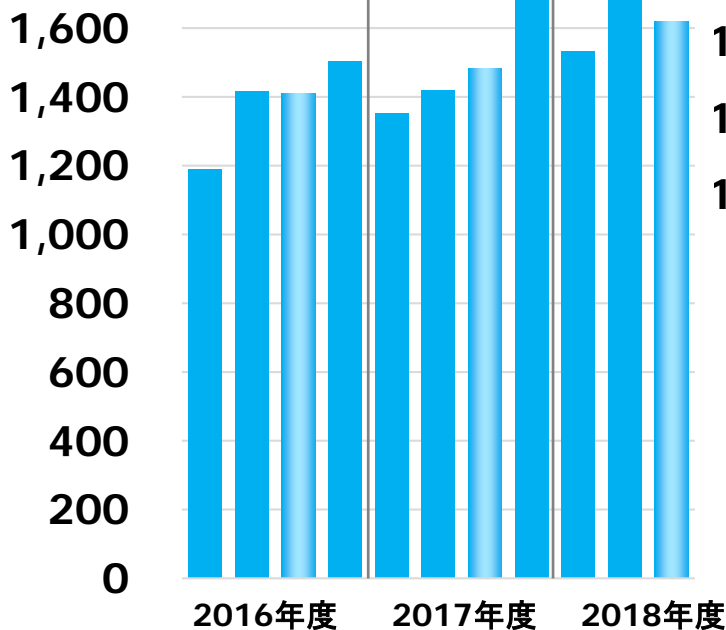


- ◆ 子会社増に伴う人件費・家賃増の他、本社で進めている業務プロセス効率化のためのシステム化に伴い業務委託手数料が増加
- ◆ 全体に経費の増加は抑制できた

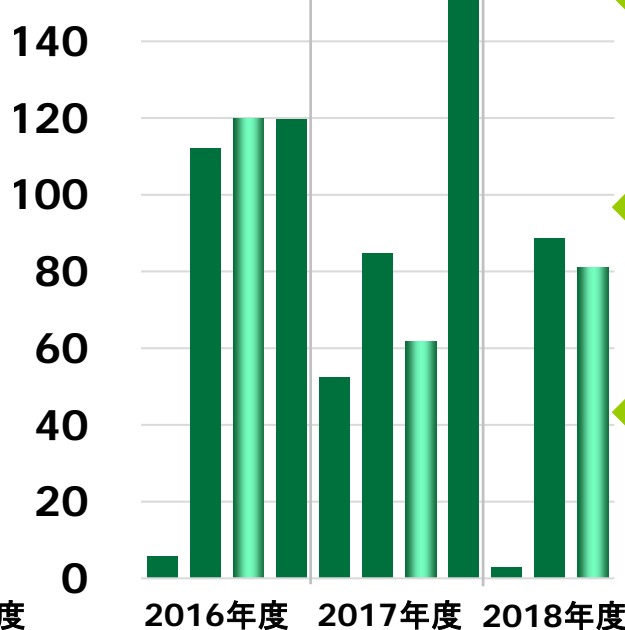
	2017年度3Q 構成比		増減率	2018年度3Q 構成比	
人件費	774	50.8%	+12.5%	871	55.5%
販売支援費	186	12.3%	△18.3%	152	9.7%
業務委託手数料	33	2.2%	167.6%	89	5.7%
その他	528	34.7%	△13.5%	457	29.1%
販管費合計	1,523		+3.1%	1,570	

四半期別売上、利益推移（連結）（単位：百万円）

1,800 売上高



160 営業利益

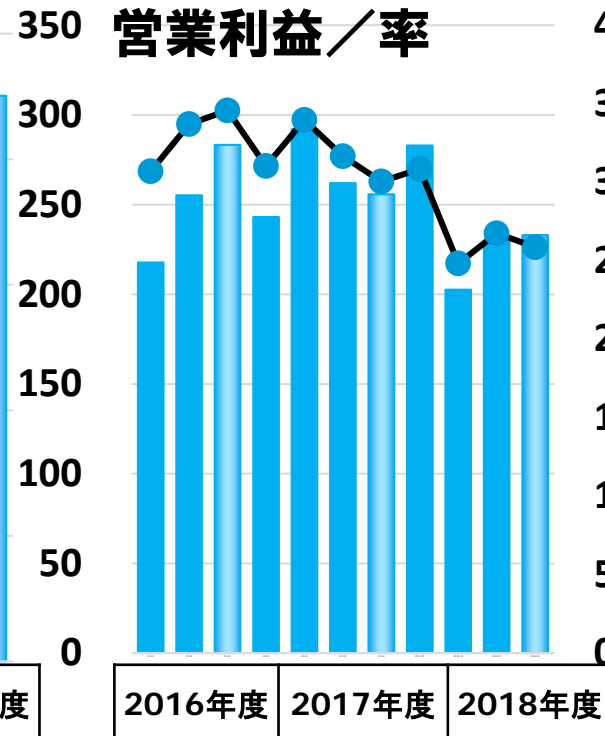
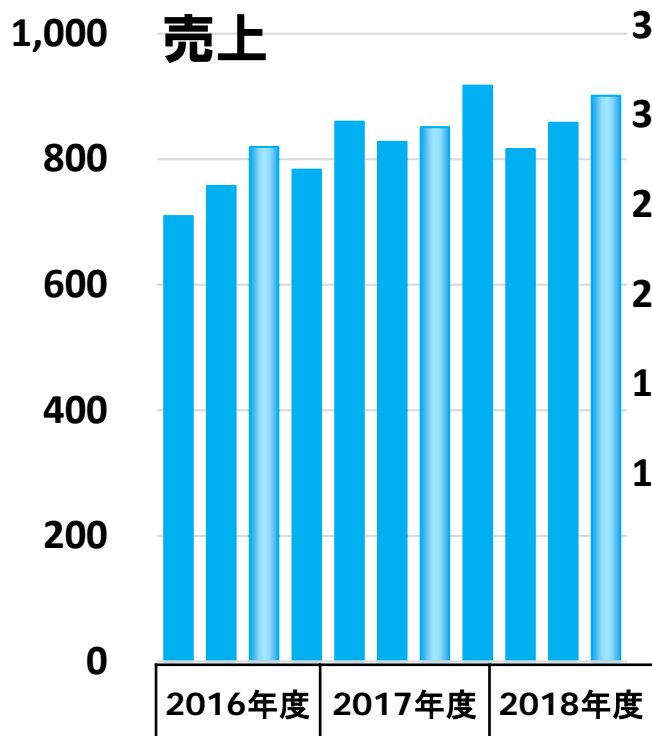


- ◆ 3Qは前年同期対比売上、利益共に積み増しできた
- ◆ 主力の医薬系受注が復調、四半期で前年並みに
- ◆ 映像制作子会社の損失幅縮小に加え、他の子会社は好調に推移

	2016年度				2017年度				2018年度		
売上高	1,189	1,416	1,410	1,505	1,352	1,418	1,483	1,847	1,533	1,799	1,620
営業利益	5	112	119	95	52	84	61	158	2	88	80
純利益	△4	67	77	65	127	66	16	78	△3	56	47
売上高	2,605		2,915		2,770		3,330		3,333		
営業利益	118		215		137		220		91		
純利益	63		143		194		94		53		

セグメント売上・営業利益状況：配信事業

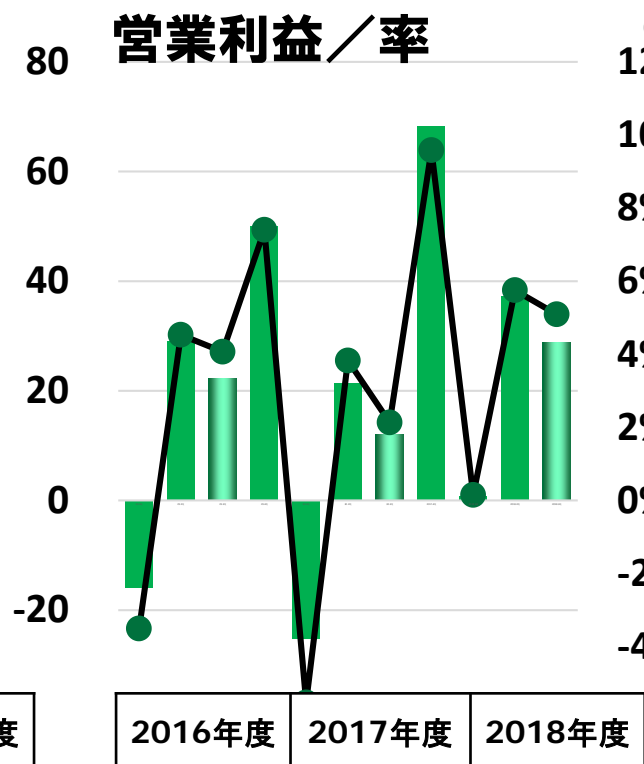
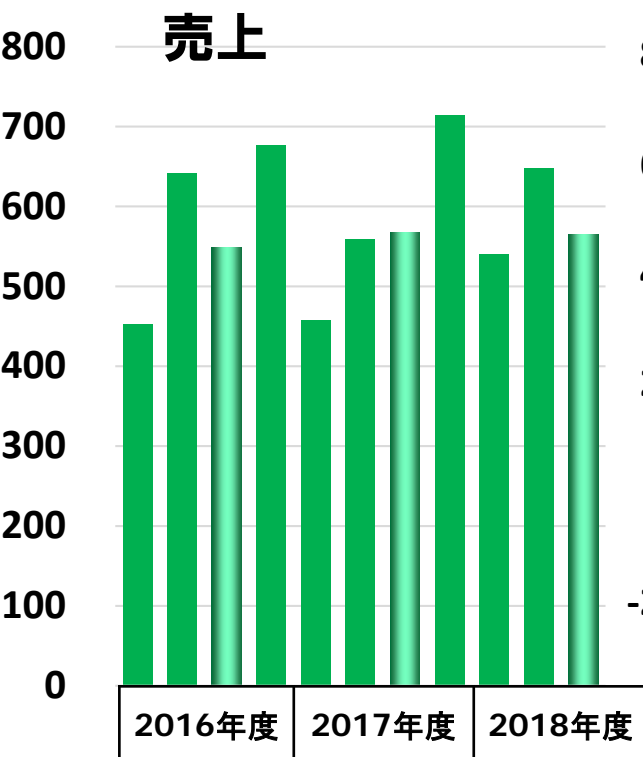
(単位：百万円、%)



- ◆ 3Qは上期対比医薬系のWEB講演会受注上向き、売上利益共に改善したが、通期で前年度には及んでいない
- ◆ 大型の運用案件、開発案件等新規案件は増加
- ◆ 利益率の高い案件の減少と外注費の伴う新規案件(大口中心)の獲得に伴い利益率は低調が続く

	2016年度				2017年度				2018年度		
売上	709	757	819	783	859	827	851	917	816	858	901
営利	217	254	283	243	292	262	255	282	202	229	232
利益率	30.6	33.6	34.6	31.0	34.0	31.7	30.0	30.8	24.8	26.8	25.8
半期	1,466		1,602		1,687		1,768		1,674		
通期	3,069				3,455						

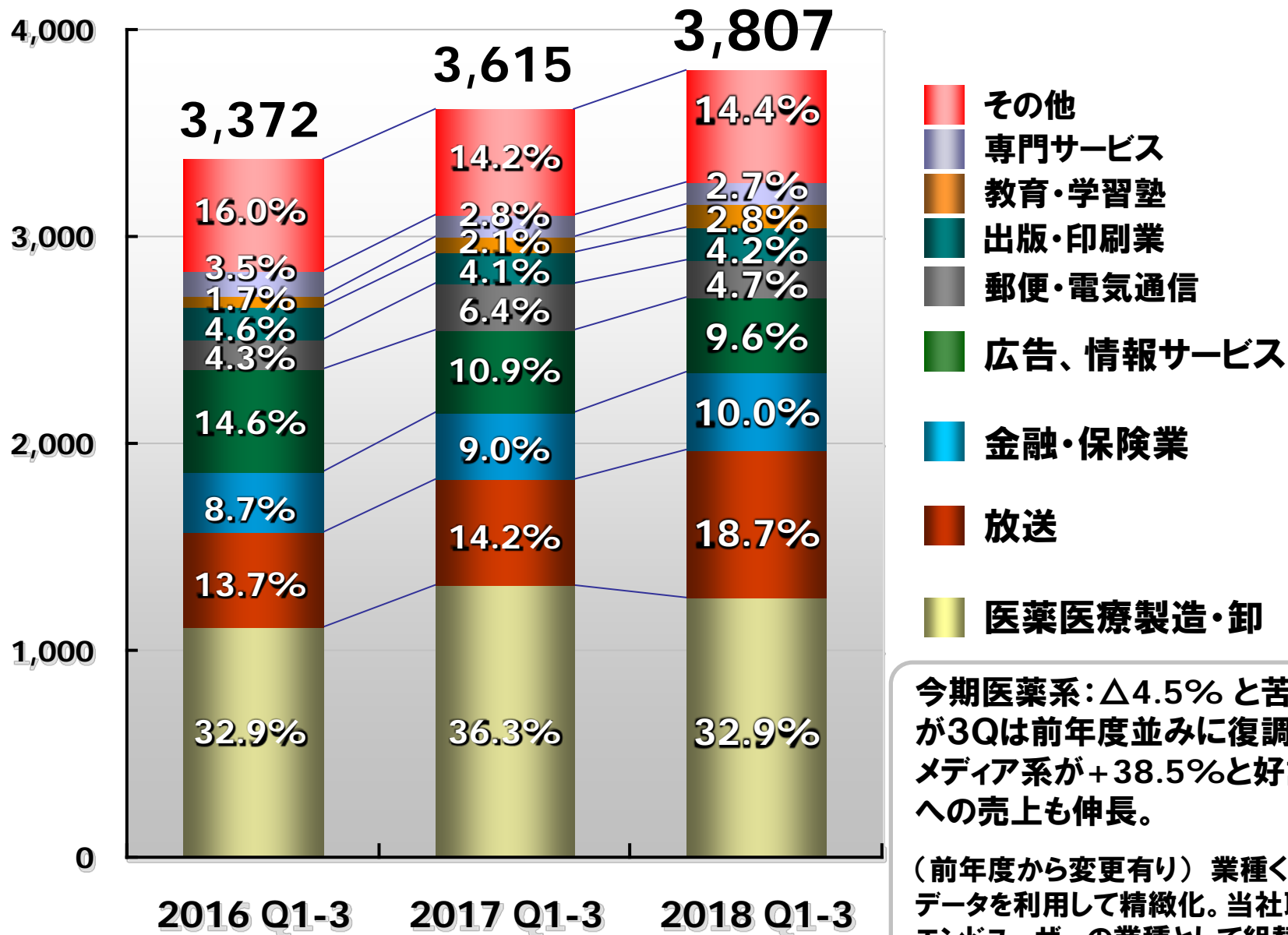
セグメント売上・営業利益状況：制作・システム開発事業



- ◆ 3Qは上期のようなメディア関連の大口システム開発がなく売上は前年度並みとなったが、利益率は改善。制作サービス独自のメニュー化を進め販売拡大図る
- ◆ 映像制作子会社は苦戦続くが売上、粗利率共に改善

	2016年度				2017年度				2018年度		
売上	452	641	548	676	457	559	567	713	539	647	564
営利	△15	29	22	50	△25	21	12	68	0	37	28
利益率	△3.5	4.5	4.1	7.4	△5.5	3.8	2.1	9.6	0.2	5.8	5.1
半期	1,094		1,224		1,016		1,280		1,187		
通期	2,318				2,297						

業種別売上比率(個別)

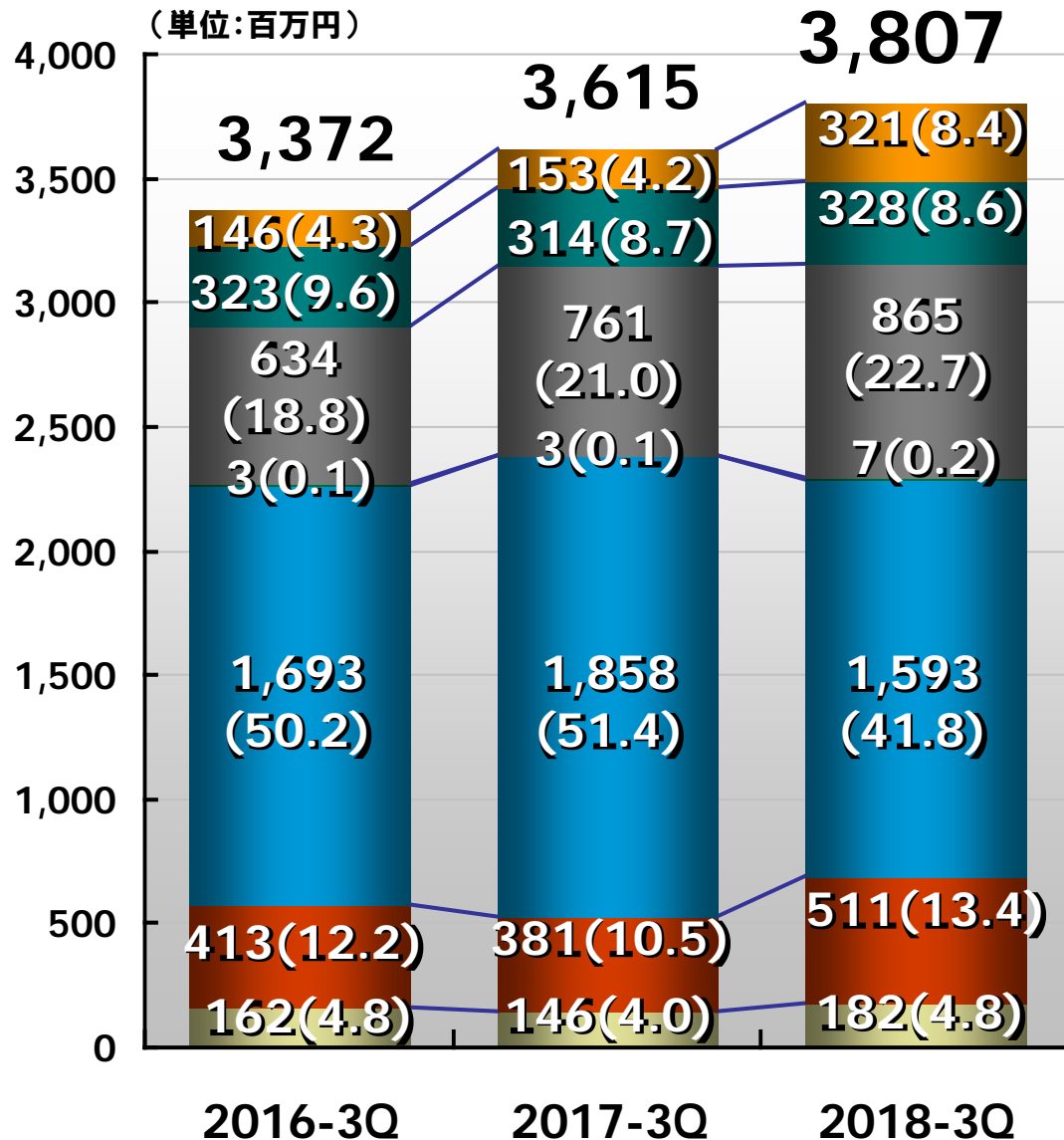


今期医薬系：△4.5%と苦戦しているが3Qは前年度並みに復調。放送メディア系が+38.5%と好調。金融系への売上も伸長。

(前年度から変更有り) 業種くくりを外部データを利用して精緻化。当社取引先でなくエンドユーザーの業種として組替表示。

用途別売上比率(個別)

(単位:百万円)



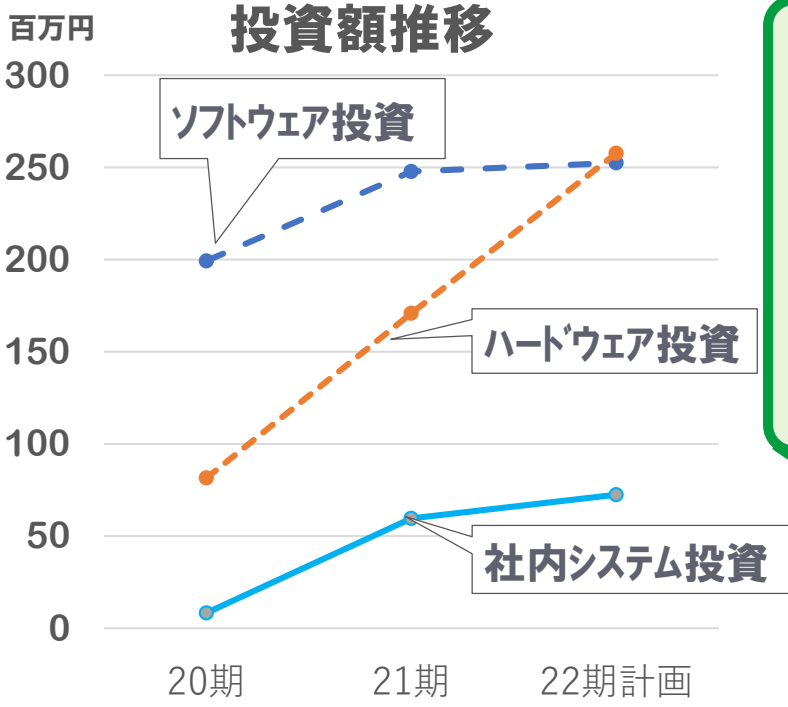
用途	増減率
その他	+109.8%
エンターテインメント (音楽/映画/娯楽/スポーツ)	+4.3%
番組/放送局	+13.7%
ストリーミング広告	+181.1%
販促(商品紹介/CM/セミナー/イベント)	△14.2%
採用/教育/研修	+34.3%
会社案内/IR	+24.3%

◆ 教育研修用途の伸びが順調。

用途別分類についてもデータ集計方法を調整中であり、見かけ上その他が増加している。

第22期投資計画

投資総額590百万円(前年計画比+20%)
サービス開発、競争力向上、業務効率化を重視



ハードウェア
 サーバー、ストレージ 増強
ソフトウェア
 Equipmedia
 CDNext
 ライブサービス
 OTT
 その他サービス
 の機能拡張等のサービス強化

制作系
ソフトウェア

社内設備
 社内システム
 ソフトウェア
 (業務効率化・
 IT統制強化)



投資実施状況

	投資項目	年間予定額
2018 年度 1-3Q	■ 事業関連ソフトウェア 262	403 (590)
	EQエンハンス他配信関連 84	
	サイマル配信関連基盤 53	
	CDNext、ライブ等 51 その他 74	
	■ 事業関連ハードウェア 89	
	配信系各種 79 制作系 10	
	■ その他 51	
ビジネスプロセス管理システム・ 社内システム系 21		
造作等 28 商標等 1		

※切捨等の処理により合計額は一致しません

経営方針と 最近のトピックス

もっと素敵な伝え方を。

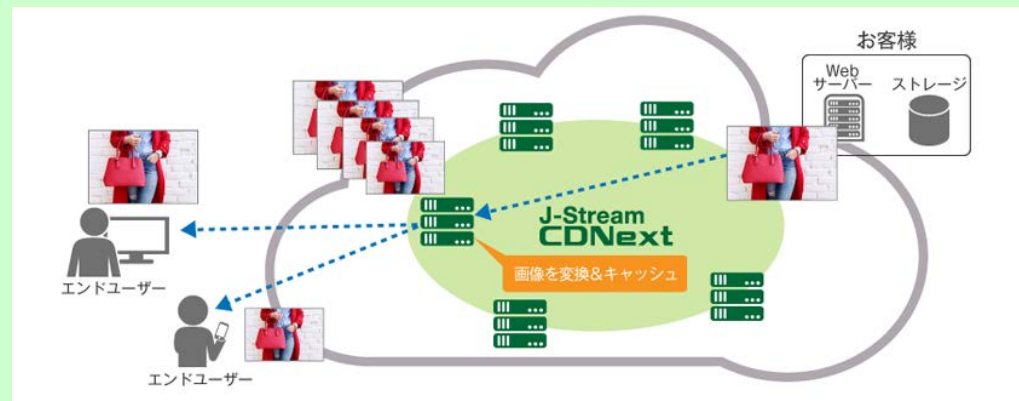


1枚のオリジナルの画像からデバイス毎に最適化されたサイズ変換や加工処理を自動で行い、Webサイト上での表示を高速化する画像変換サービスの提供を開始

ECサイト、不動産サイトやメディアサイトなどの画像が多く利用されているWebサイトには、画像をデバイス毎に生成/加工する運用負荷、その画像を保存するWebサーバのストレージ容量の肥大化や表示速度の遅延といった課題がある。

デバイス毎に最適化された画像サイズの自動生成や、画像の掲載場所/用途に応じた加工処理(パディング、クロップ、オーバーレイ)を自動で行うことが可能「J-Stream CDNext」で配信をサポートし、高速表示を実現。

画像変換エンジンには
さくらインターネット「ImageFlux」
のエンジンを採用



ロボティック・プロセス・オートメーション(Robotic Process Automation、RPA)を利用して、YouTubeで配信する動画をミス無く低価格で登録・運用できる、YouTube動画登録代行サービス

企業がYouTubeチャンネルを運用し、投稿を行う際には、動画タイトルや公開設定などの基本設定に加え、カテゴリ、Call-to-Action オーバーレイ、見出し等の詳細設定を登録するなど、多くの手間を必要とする
コストとしての時間／ヒューマンエラー リスク

動画登録に必要なデータはエクセルシートを利用するが、専用のWeb入力フォームを利用することで動画とメタ情報の入稿を一元化して行うことも可能。入力項目には制限をかけることができ、メタ情報の入力ミスを防ぐ。

**最先端の動画ソリューション提供会社で
あり続け、企業活動の支援を通じて
社会の発展に貢献する**

市場・事業戦略

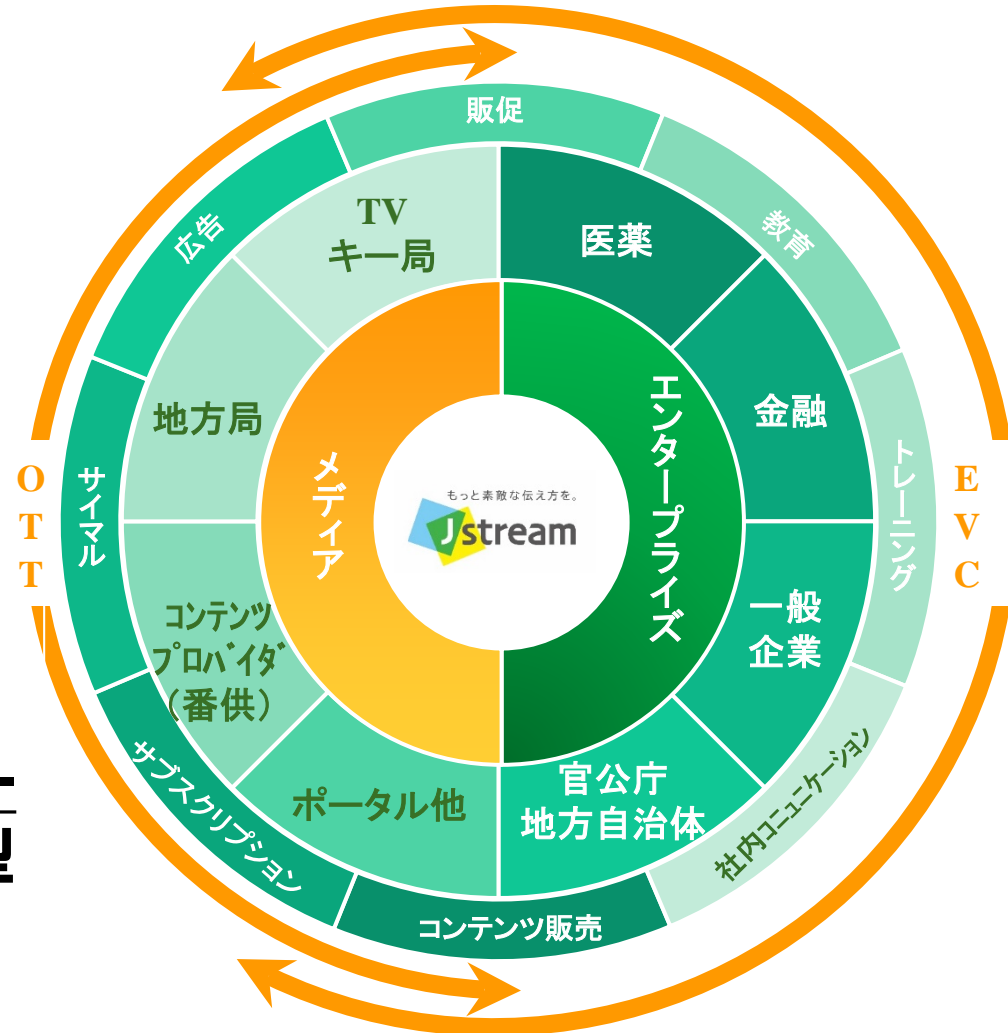
メディア、エンタープライズ顧客に対し、 OTTとEVCを軸としてサービス展開

1. メディア

- 放送局のサイマル放送対応
- 番供を中心としたコンテンツプロバイダーのインターネット配信への切替にフォーカス

2. エンタープライズ

- 医薬と金融を重点市場とする営業戦略を継続
- トレーニング、社内コミュニケーション、販売促進 用途特化型サービスを順次整備



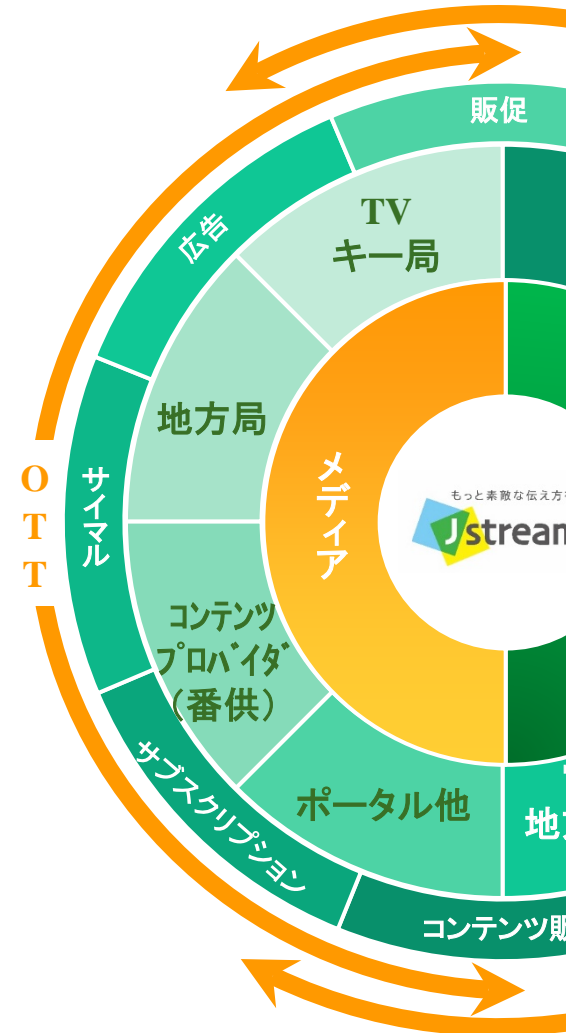
市場・事業戦略

1. メディア

- キー局、地方局にあるIPサイマル放送需要を取り込むべくサービス化推進
- 既存顧客拡大のために制作・開発体制整備
24/365体制、マルチCDN Cedexis導入等
- スキニーバンドル・OTTビジネス需要に対しては、サービスをパッケージ化して対応

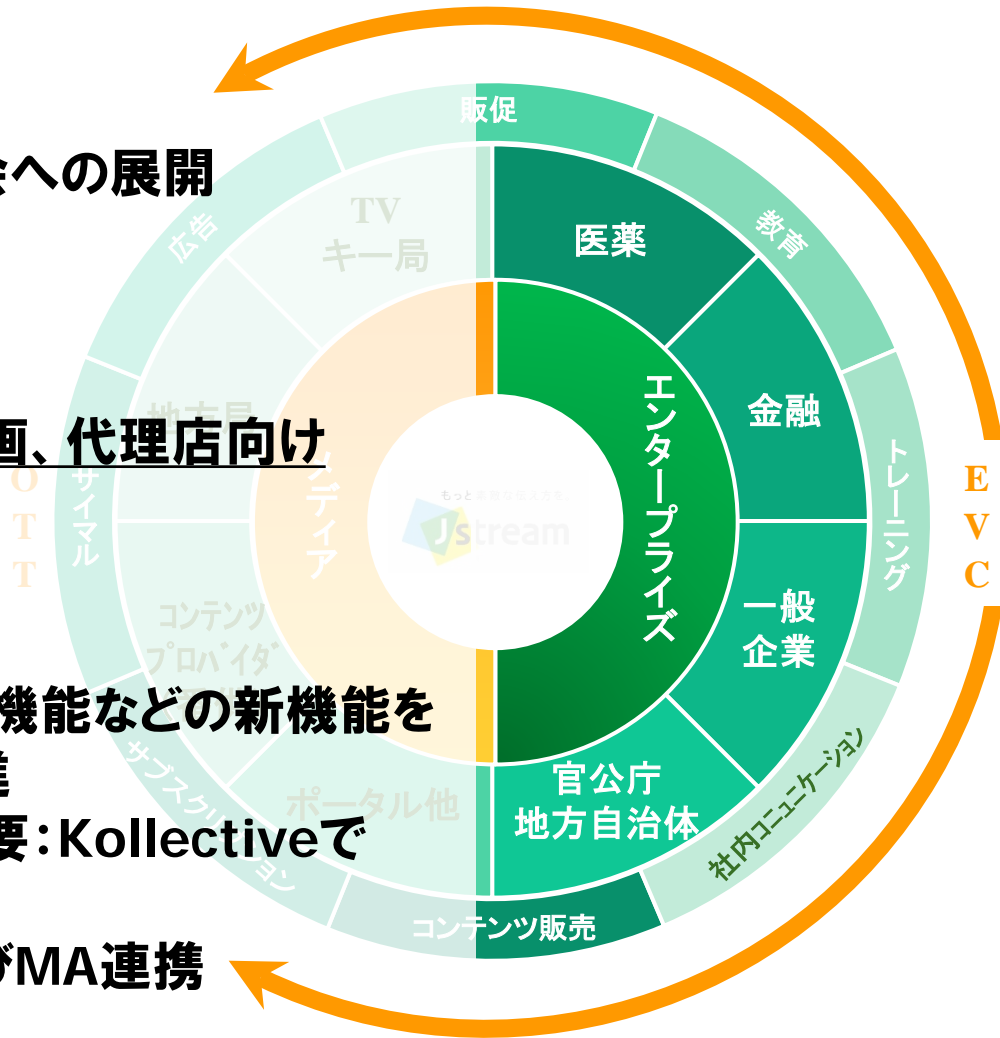
スポーツや公営ギャンブル領域

イノコス社リソースを活かし放送側からアプローチ
マイナースポーツ・地方局の実績蓄積



2. エンタープライズ

- 医薬関連**
 WEB講演会更に拡販、専門医学会への展開
 双方向・4K等の新ニーズ開拓
- 金融**
 PR用コンテンツ制作、社内利用動画、代理店向け教育・情報発信
- EVC戦略**
 EQにコンテンツ内製、ウェビナー機能などの新機能を実装、社内コミュニケーション推進
 社内コミュニケーション活性化需要: Kollektiveで大口顧客に応える
 CRM、MAの導入・運用支援及びMA連携による新領域開拓



関係会社活動計画

配信系	<ul style="list-style-type: none">■ イベントの全行程管理システムを整備しライブ案件獲得の武器に■ OTT開発体制を強化■ EVC領域:ユーザー認証コンテンツ配信サービスとEQの連携を広げ、初期費用を抑え提案機会を拡大
制作系	<ul style="list-style-type: none">■映像技術／デザイン／マーケティング 関連サービス プロダクション体質から意識改革、販売力・サービス品質向上 →制作と販売のバランスを販売に寄せ、新規顧客開拓に取り組む■収益力の高い次世代型映像技術サービス(動画配信・VR・オフチューブなど) 運用型サービスにより売上向上を図る■デジタルマーケティング領域でのサービスパック構築や自社セミナー開催などにより新規顧客獲得／制作を効率化する■Jストリームからの受注が中心のウェブ制作・運用子会社もグループ外からの受注活動を積極推進
その他	<ul style="list-style-type: none">■ 放送用エンコーダ提供等の物販／DRMやクラウドマルチキャスト等のサービス のバランスがとれた体制を構築

業績予想値

	2018年度		
	3Q実績	通期予想	進捗率
売上高	4,953	6,950	71.3%
営業利益	172	375	46.0%
経常利益	172	375	45.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	101	250	40.4%

説明内容についてのお問合せ先

決算説明内容についてのお問い合わせは

【メール】

https://page.stream.co.jp/pr_inquiry.html
(お問い合わせフォーム)

【電話】

電話 03-5765-7744 (総務部広報IR課)

へお寄せください。